

第1号議案—1

品質保証研究会 平成29年度活動報告

1. 活動状況

(1) 平成29年度の活動は、第27回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	総会	通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	特別講演会	1回
3			講演会	1回
4			見学会	1回
4	定例研究会活動	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	QASGニュースの発行 第91号～第93号	3回
5			グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ
			第2グループ	5回
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援	幹事会の開催 第173回～第177回	5回

(2) 平成29年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

2. 活動要約

平成29年度の活動要約を表2に示す。

表1 品質保証研究会 平成29年度活動計画兼実績

○・▽：計画 ●・▼：実績

項目	2017年(平成29年)						2018年(平成30年)						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
総会	第27回 6/6 ▼												第28回 6/13 ▼
	特別講演会 ▽												特別講演会 6/13 ▼
全体活動	計画								○ (案内発送)	第45回 3/20 ▼		○ (案内発送)	
	実績	6/6 ▼							● (案内発送)				
見学会	計画				○ (案内発送)	第43回 ▽							
	実績					● (案内発送)	12/13 ▼						
QA SG ニュース	計画		○ (依頼)	○ (締切)	91号 ▽ (発行)		○ (依頼)	○ (締切)	92号 ▽ (発行)	○ (依頼)	○ (締切)	93号 ▽ (発行)	
	実績			8/10 ●	9/11 ▼			1/23 ●	2/27 ▼				
第1グループ	計画		第1回 ▽ (定例研究会)		第2回 ▽ (定例研究会)	第3回 ▽ (定例研究会)			第4回 ▽ (定例研究会)		第5回 ▽ (定例研究会)		
	実績		7/10 ▼		9/25 ▼	11/20 ▼			2/6 ▼		4/10 ▼		
第2グループ	計画		第1回 ▽ (定例研究会)		第2回 ▽ (定例研究会)	第3回 ▽ (定例研究会)		第4回 ▽ (定例研究会)		第5回 ▽ (定例研究会)			
	実績		7/18 ▼		9/26 ▼	11/6 ▼		1/17 ▼		3/15 ▼			
幹事会	計画			第173回 ▽	第174回 ▽			第175回 ▽		第176回 ▽	第177回 ▽		
	実績			8/28 ▼	10/18 ▼			1/22 ▼		3/20 ▼	4/18 ▼		

表 2 平成 29 年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	総会	通常総会 第 27 回	平成 29 年 6 月 6 日(火) 学士会館 2 階 210 号室	48 名 (他、委任 状 27 名)	(1) 議案審議 ①平成 28 年度活動報告・決算案の承認 ②平成 29 年度活動計画・予算案の承認 (2) 定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演会	特別講演	平成 29 年 6 月 6 日(火) 学士会館 2 階 210 号室	80 名	「技術に携わる専門家への教養教育～社会と技術のよりよい共存に向けて～」 藤垣裕子氏 [東京大学 教授]
		第 45 回 講演会	平成 30 年 3 月 20 日(火) TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター(2F)202 室	60 名	「「隠しごと」を考える～品質・安全問題に関連して～」 小松原明哲氏[早稲田大学 教授]
3	見学会	第 43 回 見学会	平成 29 年 12 月 13 日(水) (株) 富田製作所古河工場	16 名	施設/設備見学、品質保証および品質作り込みに対する意見交換など
4	QASG ニュース の発行		(1) 第 91 号 平成 29 年 9 月 (2) 第 92 号 平成 30 年 2 月 (3) 第 93 号 平成 30 年 5 月		① 第 27 回通常総会報告 ② 第 1・2 グループ活動 計画および活動報告 ③平成 29 年度役員紹介 ④第 43 回見学会記 ⑤第 45 回講演会報告、他
5	定例 研究会	第 1 グループ (リーダー： 工藤竜太 会員)	<p>【研究テーマ】 『研究テーマ：品質システムの研究「原子力 QMS のあるべき姿に関する研究 - 原子力セクタ規格の調査・検討」』</p> <p>【研究の内容】 昨年度までに検討を進めて来た結果で原子力 QMS の骨格が出来上がったものと考えているが、今年度は、業界全体で構成する「大きな QMS」を原子力セクタ規格としてより先進で、且つより実効的なものとするべく、特徴的な事項について更に検討を進めた。</p> <p>1) 要求事項の整理</p> <p>① 原子力セクタ規格に求められる機能の考察 原子力産業の特徴から QMS に必要と考える機能を考慮して、ISO 9001 や ISO 19443 草案、JEAG4121 附属書 1 などの要求事項を再確認し、必要な要求事項を検討した。</p> <p>② 規制庁品証技術基準追加 20 項目の影響評価 IAEA GSR Part 2 や米国状況、ISO 9001:2015 から追加を検討している 20 項目（註：その後変更され現時点では 21 項目）を確認し、要求事項に関係する項目を検討した。特に一般作業向け工業品の扱いに関しては、米国の Commercial dedication を学習し適用に際しての課題点を挙げた。</p> <p>③ セクタ規格の反映検討 JIS Q 9100 および ISO FDIS 19443 の内容を確認し、原子力セクタ規格としての追加要求事項を入れ込む際の参考となること（JIS Q 9100）や、ISO FDIS 19443 の要求事項を取り込むよう方針を固めた。</p> <p>2) リスクコミュニケーションの検討 課題認識力の向上に関して、メンバー各社での取り組みを紹介し合い、過去の不適合データの有効活用が重要であることなど重要なポイントを認識した。</p>		<p>定例研究会</p> <p>平成 29 年 7 月 10 日 平成 29 年 9 月 25 日 平成 29 年 11 月 20 日 平成 30 年 2 月 6 日 平成 30 年 4 月 10 日</p>

